

哲学・芸術論コースのコンセプトおよび新任教員に期待すること

1. 哲学・芸術論コースのコンセプト

哲学・芸術論コースは、思考や芸術表現といった人間の根源的な活動を探究するとともに、現代社会におけるそれらの意義や課題を究明していくことを目的としています。当コースにおいて特に重視する教育目標は、哲学や芸術に関する幅広い知識や研究方法を学ぶだけでなく、自ら文献を徹底的に読んだり、伝統芸能のリサーチをしたり、地域を舞台に飛び回ってみたりというように、古今東西・縦横無尽に知的回遊することができる人材を育成することです。コース内は、旧「哲学・思想論分野」の流れを汲む「哲学系」と旧「芸術コミュニケーション分野」の流れを汲む「芸術系」とにゆるやかに分かれています。学生には幅広く自由な履修を推奨しています。「哲学系」は西洋哲学と東洋哲学とを偏りなく学べる点に、「芸術系」は地域をフィールドにした実践的な学びが行える点に特徴があります。そして、このような、近いようでいて遠く、まったく異質なようでいて地続きのようにも思える、二つの系統が共鳴し合ってコース運営が行われている点こそが、当コースの最大の特徴だと言えるでしょう。

令和8年4月1日現在、当コースは、「西洋美術史・近現代美術史」、「音楽学」、「中国哲学」、「倫理学・西洋哲学」、「インド哲学・仏教学」、「言語哲学・心の哲学」を専門とする6人の教員によって構成されています（最後に掲げた教員は令和9年3月末に定年退職する予定です）。当コースは令和9年度以降も引き続き、学生の幅広く自由な履修を保証し、哲学・芸術論の教育研究の裾野をさらに広げ、方法の多元化を試みていく所存です。

2. 新任教員に期待すること

上記の哲学・芸術論コースのコンセプトと教育理念、および信州大学の理念・目標、人文学部の理念・教育研究目標に共感し、ご自身の研究領域・テーマを探求しながらも、専門的見地から他の教員と互いに補完・協働し合い、本学における研究・教育に熱意を持って取り組んでいただける方を期待します。具体的には、下記の要件を満たす方を望みます。

- ① 自らが専門とする研究分野において創造的で高度な研究を推進するとともに、学生教育に強い熱意と若々しい感性をもってのぞむことができる方。
- ② 自らが専門とする研究分野だけでなく、コースや学部全体の教育実践にも積極的に協力ができる方。
- ③ 国際交流および地域貢献に理解と関心があり、様々な文化事業に意欲的に取り組める方。

* 信州大学人文学部の教育理念等については、以下のURLをご参照ください。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/guidance/>